

砂川市庁舎建て替えへ

検討委の答申受け市長方針

【砂川】市内各団体の代表ら16人でつくる市役所庁舎の整備検討委(委員長・

小関敏市社会福祉協議会会長)は25日、1970年築の庁舎について「建て替えずべきだ」とする意見書をまとめ、善岡雅文市長に答申した。これを受け、善岡市長は12月の市議会定例

会で建て替える方針を表明する見通し。

現庁舎は3階建て。耐震化されておらず、エレベーターがなく高齢者や障害者には不便なことなどから、建て替えか大規模改修が必要となっている。

検討委は8月に発足。市を事務局に計5回の会議を



開き、①現在地での建て替え②移転新築③部分改築④全面改築—などのテーマを

善岡市長(左)に意見書を渡す小関委員長(右から2人目)ら整備検討委のメンバー

決め、各場合でどんな方法が最善か協議してきた。

この日、提出された意見書には「補修しながら使い続けても、不便な建物に変わりはしない」「高層化で床面積を小さく新築し、代わりに駐車場の確保を」「新築して福祉センターなどの関連施設も入る複合施設に」「JR砂川駅前の再開

発と併せて移転新築の検討を」などの意見が盛り込まれた。

意見書を受け取った善岡市長は「使いづらい庁舎だとお叱りを受けていた。庁舎は事務室。立派にしようとは思わないが、長年使うので、機能が優れていれば多少予算がかかっても仕方ない」と話した。建て替え方針を表明後、予算算出や場所選定のための委員会を発足させる。(和賀豊)